

2024 年度 大学院 法学研究科 博士前期課程 入学試験

(一般入学選考 9 月)

1 時限目 A 専門科目

租税法 試験問題

受験番号	氏名

『租税法』

次の二つの問題のうち、一つを選択して論述してください。

問題1 「合法性の原則」の意義や内容に触れた上でそれを制約する原理をいくつか挙げて論述してください。

問題2 所得税における課税物件の帰属（所得の人的帰属）について論述してください。

〔参照条文〕

所得税法

第十二条 資産又は事業から生ずる収益の法律上帰属するとみられる者が単なる名義人であつて、その収益を享受せず、その者以外の者がその収益を享受する場合には、その収益は、これを享受する者に帰属するものとして、この法律の規定を適用する。

解 答 例

近畿大学大学院法学研究科 (博士前期) 課程

2024年度入試 (9) 月期 <2023年度実施>

(一 般) 入学選考

(A 専門科目)

科目名 (租 税 法)

解答例はなし

出 題 意 図

近畿大学大学院法学研究科（博士前期）課程

2024年度入試（9）月期 <2023年度実施>

（一般）入学選考

（A 専門科目）

科目名（租税法）

問題1

租税法の基本原則である租税法律主義についての理解を問うものである。

その一つである「合法性の原則」に関して金子宏『租税法』（弘文堂）などの代表的なテキストを読み込んでその意義及び内容を理解しているか、さらに、平等取扱原則や信義則との関係など合法性の原則を制約する原理にも理解が及んでいるかを問うている。

問題2

重要な課税要件の一つである「課税物件の帰属」についての理解を問うものである。

特に所得税法における実質的帰属者課税の原則の意義に関して、佐藤英明『スタンダード所得税法』（弘文堂）などの代表的テキストを読み込んで、所得税法12条の解釈上の異なる見解を展開することができるか、さらに、所得の人的帰属について東京高裁平成3年6月6日判決等を挙げて説明することができるかを問うている。